

研修主題

本に親しみ、自分の思いを豊かに表現できる児童の育成

～学校図書館を活用した指導の工夫を通して～

<主題設定の理由>

テレビやゲームなどの視覚的メディアが普及し、本を読まない子どもが増えている。受け取るだけの情報は、子どもたちの思考力を奪い、言葉を読み解く力さえも奪取している。「活字離れ」という言葉が話題とされているが、現代を取り巻く環境はまさに活字を介さなくても生活していける状況にある。一方学習指導要領では「生きる力」を提唱し、将来子どもたちが担っていくであろう国際社会や知識基盤社会に向けて、自ら判断し、考え、表現する力の育成に取り組んでいる。これらの力をつけるために今、言語活動の充実が叫ばれ、また言語活動の基礎となる「読む」という活動が重要視されている。

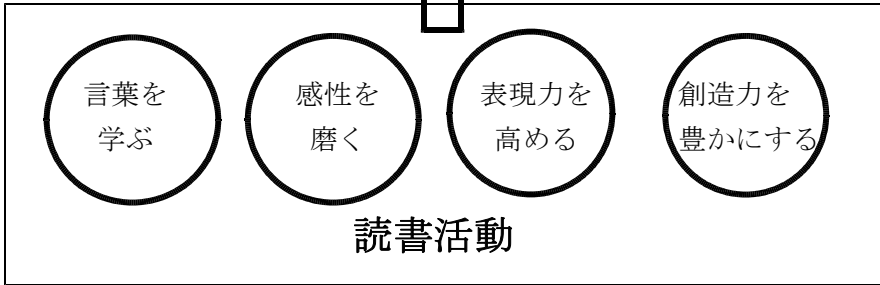
本校では、本を読むのが好きだと答える児童が大半である。しかしその中身は漫画や簡単な活字の本、視覚的に読めるパズルや迷路の本が多い。長編の物語に挑む児童はわずかで、活字の多い本に抵抗感を持つ児童がほとんどである。当然長文を読んで答える問題や、あらすじをまとめる、文中から必要箇所を抜き出す、文を読んで自分の考えを書く・表現するということが苦手意識をもっている児童が大半であり、それらを克服することは本校の切実な課題である。

そのため、まずは活字を読むということの抵抗感を無くし、本を読む習慣を定着させ、読書好きの児童を育てること、また偏った選書ではなく幅広い読書ができる児童を育てることが必要だと考えた。そのため、本校では研修主題を『本に親しみ、自分の思いを豊かに表現できる児童の育成』とし、本に親しむ中で「この部分が面白かった」「この主人公の行動に共感した」などの自分の思いや考えを持たせ、感動する心、創造する力を育てていきたいと考えた。そして自分の思いを言葉で表現する力を育てていくために、発表会や意見交流の場を積極的に授業の中で作ったり、文章で表現するために新聞づくりやリーフレットづくりをさせたり、動作で表現する力を育てていくためにペープサートや劇などを取り入れたりしていくことが児童の豊かな表現力を養っていくために最適であると考えた。

また、本に親しむ児童を育てていくためには、学校図書館の存在が必要不可欠である。そして、これからの学校図書館の役割としては「読書センター」「学習センター」「情報センター」があり、読書のための場だけでなく、学びの場として活用することが求められている。そのため副主題を『学校図書館を活用した指導の工夫を通して』とした。各教科で図書館を活用した授業を展開させ、そこから様々な言語活動を体験させる。図書館を活用することで自分の思いを表現するための糧となる、必要な本を選び取る力、本を読み解く力、情報を選択する力を培うことができると考える。そして、そこから得たものを様々な手段で豊かに表現できる児童を育成することがこの主題のねらいである。

< 読書活動の考え方 >

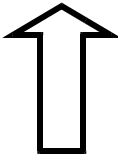
人生をより深く生きる力



- ・読み聞かせ
- ・ブックトーク
- ・朗読
- ・紙芝居
- ・ペープサート
- ・読書紹介 など

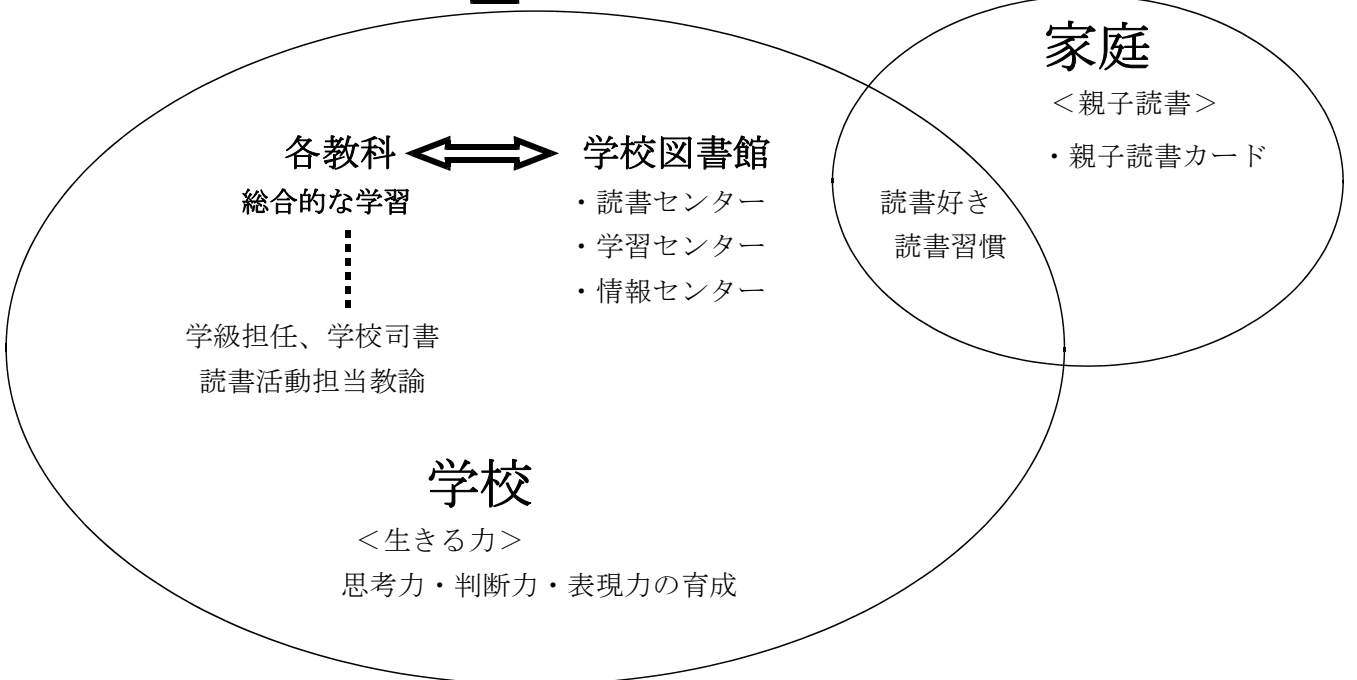
読書の目的

豊かな人間性をはぐくむ



読書活動を

自主的に行うための環境づくり



< 本校の児童の実態 >

図書室へ行くことの少ない児童の様子

○本を読むのが嫌い	○絵やパズル、迷路などをみるだけ	○図書館に行くより外で遊ぶほうが楽し	○好きな本がない	○どこに何があるかわからない
○読書は面倒くさい	○学年に合った読み物を読んでいない	○読みたい本がない	○調べたいものが見つからない	

II 研究のねらい

様々な読書活動を行うとともに、各教科において学校図書館を有効に活用した指導の工夫を通して「本に親しみ、自分の思いを豊かに表現できる児童の育成」を図る。

III 研究の見通し

読書活動を通して本に親しむ機会を増やし、文章を読む力を育て、感性、創造力豊かな児童の育成を目指す。また、そこで培った力を生かす場として、各教科での学校図書館を活用した学習活動を工夫していく。各教科の学習活動としては、情報を得るための活動、まとめる活動、表現する活動を系統だてて取り入れる。さらに、自分の思いや考えをさまざまな方法で伝える力をつけるために、積極的に表現活動を取り入れていく。このような指導を工夫していくことで、「本に親しみ、自分の思いを豊かに表現できる児童」の育成が図れるであろう。

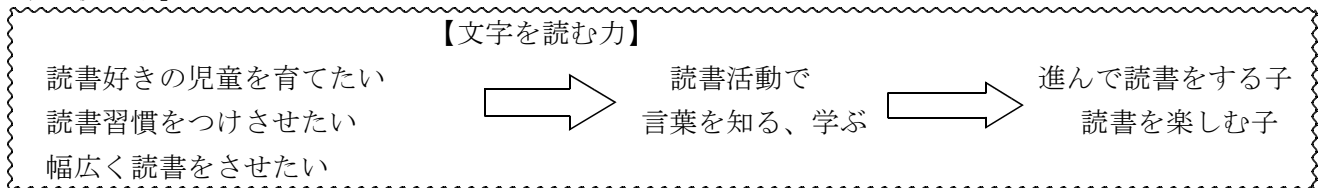
<目指す児童像>

- 進んで読書活動に取り組む子
- 自分の思いや考えを表現できる子

IV 研究の内容

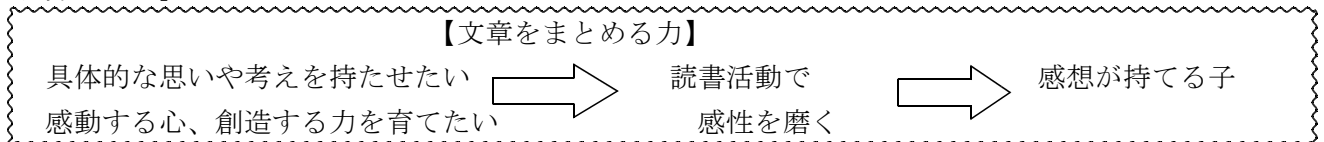
1. 基本的な考え方

- 「本に親しみ」とは・・・



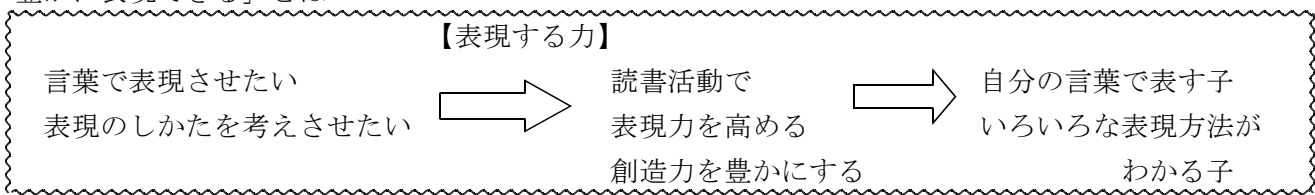
「本に親しむ」とは、読書習慣が身についていない児童や同じような本ばかりを読んでいる児童に読書の楽しさを実感させたり、幅広く読書をする経験を積ませたりするために、さまざまな読書活動を工夫して取り入れていくことであると捉える。この読書活動から得た情報や体験をもとに、進んで読書をしたり楽しんで読書をしたりできる児童の姿を目指していく。

- 「自分の思い」とは・・・



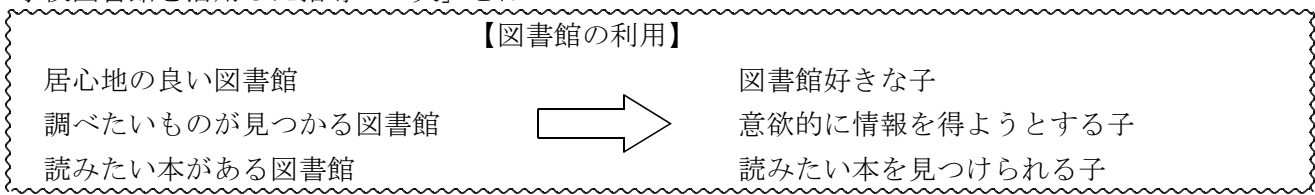
児童の「自分の思い」とは、本を読んで感想や考えを持つことであると捉える。感想と言えば「たのしかった」「おもしろかった」「よかった」など、一言で終わらせてしまう児童が多く、具体的な話ができる児童は少ない。読書することで心が動かされる場面や不思議に思う場面などに出会わせ、児童の感性を高めていけるとよい。そして、様々な読書の経験ができるように、図書館を利用した読書活動も工夫していく必要があると考える。

○「豊かに表現できる」とは・・・



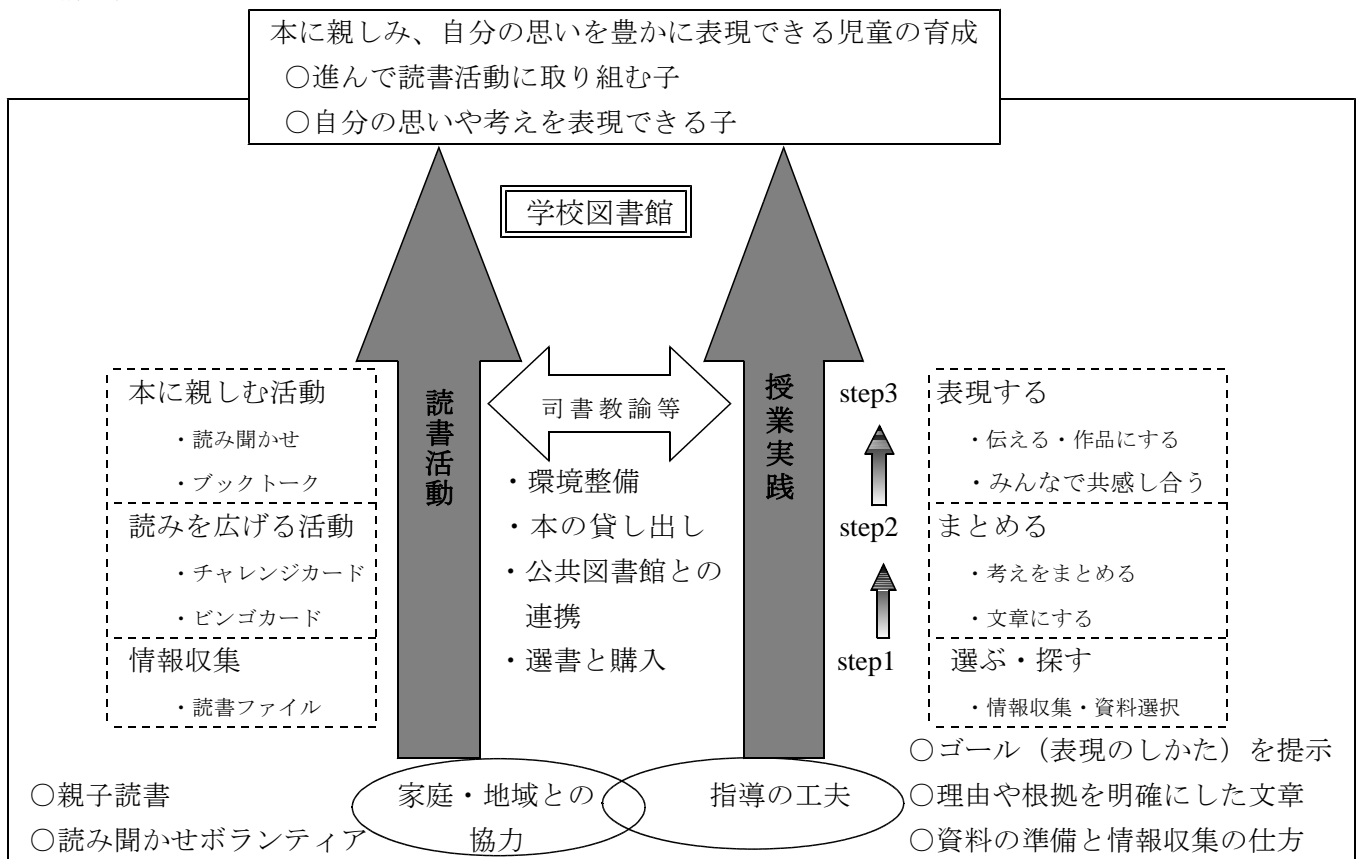
自分の思いや考えを伝えることが苦手な児童が読書活動を体験していく中で、面白かった内容や感動した内容、調べた情報などを人と共有したいという願いから、自分の言葉やさまざまな表現方法で伝えられるようになる姿であると捉える。よって、読書活動では単に読む、聞く、調べるだけにとどまらず、さまざまな表現方法を学ぶ活動も取り入れていきたいと考える。

○「学校図書館を活用した指導の工夫」とは・・・



各教科に関連する情報収集の場として、図書館利用を中心に指導することと捉える。本で調べるためには、まず図書室へ行き、次に必要な情報がどんな本を読めば見つかるのか、その本がどこにあるのかを知らなければならない。そのために、学校図書館の環境整備や使い方の指導、児童にとって魅力的な図書館になるための取組などが必要であると考えます。

2. 構想図



3. 全校の取組

○親子読書

全学年を通して、家庭学習チェック期間に親子読書を行う。保護者から子どもへの読み聞かせや(主に低学年)、それぞれ別の本を読み、保護者と読書に親しむ時間を共有する(主に高学年)。また、読んだ本の感想を親子読書カードに記入し提出する。一定時間集中して物語に浸ることで、聞く力や読む力を養い、語彙力や読解力を高めることができる。

○チャレンジカード

国語の教科書に出てくる本を1年間で全て読むことを目的としたカード。読書ファイルに入れて保管。図書室のチャレンジカード用の本棚があり、学年別に本が配架されている。本を借りるとスタンプが押され、全部読破すると認定証がもらえる。比較的易しい本を好む児童に、学年に応じた読書に慣れさせることで、読書の幅を広げることができる。

○読書月間(読書 de ビンゴ・おはなし世界旅行・先生の読み聞かせ)

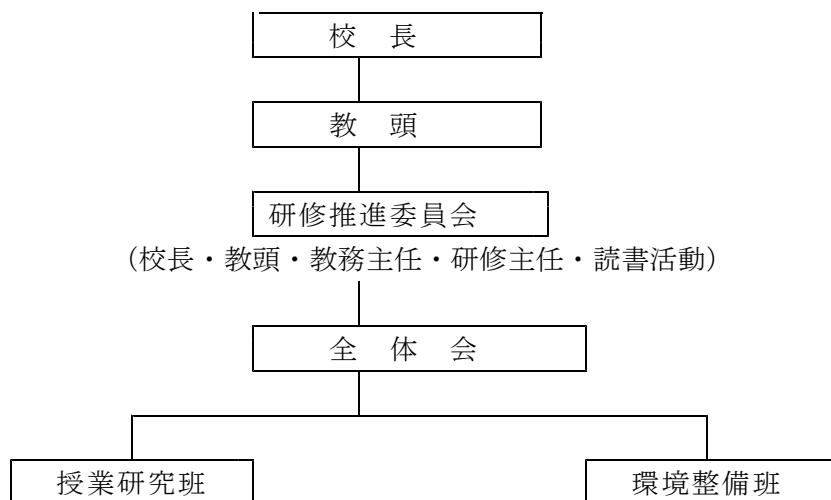
読書月間は、児童が本に親しみ、読書の幅を広げるためのイベントを行う。「読書 de ビンゴ」は、読書の偏りをなくし、様々なジャンルの本を読ませることで、今まで読むことのなかったジャンルの図書へも興味を持つことが出来る。「おはなし世界旅行」は、海外文学に触れる機会を作るとともに、その関連した国についても関心を高めることができる。読み聞かせは、先生のおすすめの本を中心に紹介してもらい、児童の読書への意欲を高められるようにする。

○読書ファイル

児童が目的や目標を持って読書に親しんでもらうためのもの。読書目標や月ごとに目標冊数を児童自身に持たせることで意欲的に読書に親しむことが出来る。また、児童が出会った本をシートに記入してファイルしていくことで、児童自身の読書履歴を残すことができ、今後の学習に活かすことが出来る。

シートに記入する本は、児童が履歴として残したいものであれば、図書室で借りた本以外でも、家庭にある本や公共図書館で読んだ本でもよい。

<研修の組織>



- 授業研究班・・・・○各学年・各教科ごとに課題解決的な学習が可能な単元の選定
 ○どんな単元で、どのような資料が必要か検討
 ○指導体制の検討（担任、司書教諭、図書館業務従事職員など）
 ○授業づくり

- 環境整備班・・・・○読書活動を行うにあたっての全学年統一した取組の工夫
 ・読書ノート
 ・音読（名文スキル）
 ・親子読書
 ○図書室の環境整備

V. 研修計画

月 日	曜日	研修内容	
4 / 8	水	全体	○今年度の研修について ○今年度の研修の方向性、内容についての検討、研修組織
2 1	火	全体	○講義 「もっと授業に図書館を －公共図書館との連携を考える－ 群馬県立図書館 山田指導主事
5 / 1 2	火	全体 部会	研修内容についての確認 目指す児童像 今後の確認 (授) 授業提案について (環) 読書活動の取組
6 / 1 5	月	全体 部会	授業者決定 実践研究の計画 (授) 実践に向けての準備 (環) 情報リテラシーについて
7 / 1 0	金	2年	○授業実践 2校時 2年生「やさいをそだてよう」
7 / 1 3	月	全体	○授業研究会 ○夏休みの研修計画
2 1	火	全体	備品整理
2 3	木	推進	○発表についての打ち合わせ 春田指導主事、小林主任指導主事、新井指導主事
2 4	金	全体	○タブレットPC活用研修会 都所指導係長 ○発表当日についての確認
2 9	水	全体	○講義 県立図書館 山田指導主事 「調べ学習を充実させるためには」 ○班別研修・全体会 県立図書館 加藤指導主事 「授業づくり」 岡指導主事
8 / 2 0	木	推進	○春田指導主事、小林主任指導主事、新井指導主事来校 授業構想、指導案
8 / 2 4	月	全体	○各学年の実践授業準備
9 / 1 4	月	全体	○実践授業の説明（4年）
1 0 / 7	水	4年	○授業実践 2校時 4年生「わたしたちにできるリサイクル」

1 9	月	全体	○授業研究会、3年ワークシート検討、図書室整備
3 0	金	推進	○春田指導主事来校
1 1 / 2	月	部会	○実践授業案の説明（5, 6年） 掲示資料づくり
1 0	火	5年	○授業実践 2校時 5年生「百年後のふるさとを守る」
1 7	火	全体 推進	○授業研究会 ○3年指導案検討
1 8	水	推進	○春田指導主事来校
1 2 / 4	金	6年	○授業実践 3校時 6年生「長く続いた戦争と人々の暮らし」
7	月	部会 ブロック	○授業研究会、実践授業の説明（1年） ○紀要原稿について
8	火	1年 推進	○授業実践 2校時 1年生「むかしばなしがいっぱい」 ○春田指導主事、新井指導主事来校 指導案検討
1 / 5	火	推進	○春田指導主事、新井指導主事来校 ○最終指導案検討
1 8	月	全体	○発表当日の流れ、資料準備の確認、指導案検討
2 7	水	全体	○事前準備（資料、会場）
2 9	金	全体	○学校図書館充実事業公開授業
2 / 8	月	全体	○研修のまとめ
2 9	月	全体	○来年度の研修について

VI. 成果と課題

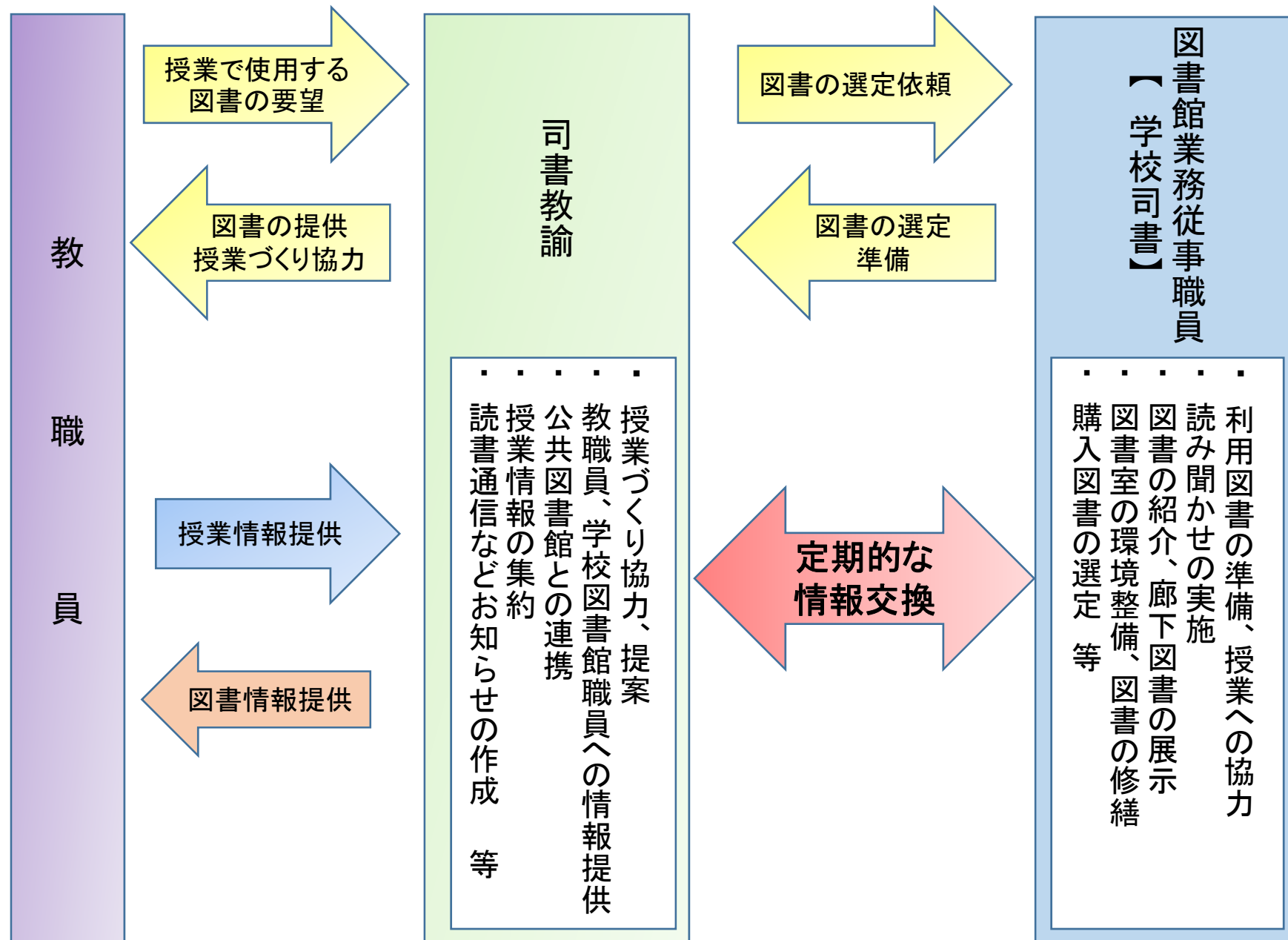
読書活動を通して

- 図書室の環境整備により、児童が図書室で必要な本をさがせるようになった。
- 読書月間のイベントやチャレンジカードを工夫したことで、児童が幅広く読書をする経験ができた。
- 本と触れあう経験が増えたことで、本好きの児童が増え、静かに集中して読書する姿が見られるようになった。
- ▲高学年になるにつれ、図書室へ通い読書をする時間が少なくなってしまうので、読書習慣をつけていくための取組を考えていきたい。

各教科での指導の工夫

- 図書室を活用する授業の計画を立て、司書教諭や図書館従事職員と打ち合わせを行い、資料や図書を事前に準備することで、児童の学習活動が充実した。
- 児童が本をじっくりと読み、付箋や読書ファイルを使って読み進めていくことにより、大事なことをまとめたり、自分の考え（感想）をもったりすることができるようになった。
- ▲自分の考えがもてるようになった児童も、まだ自信をもって表現するには至らず、今後も発表する経験を積めるようにしていきたい。

○各担当の役割分担



○朝倉小学校公共図書館の借り受けの手順

